

令和3年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備考 |
|---------------|--|--------------------------|---|---|---|--------|---------|
| 1 指導力の向上 | 【ICT活用による授業改善】 GIGAスクール構想や新学習指導要領を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて取り組む。 | 教務課 小学部 中学部 高等部 | GIGAスクール構想によりICT環境が整いつつあるが、実際にタブレット端末を活用できる教員は限定的である。タブレット端末のさまざまな活用方法を検討し効果的に授業に取り入れていけるよう、指導力の向上を図る必要がある。 | 【努力指標】 タブレット端末等のICT教材を活用した効果的な授業展開や教材などを検討し、授業実践につなげている。 | 児童生徒がタブレット端末を活用する授業を通して成果や課題が整理できた教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | 評価者：教員 |
| | | | ICTの取組を保護者や地域の方々に伝え、理解・協力を得ながら取組を進めていく必要がある。 | 【満足度指標】 ICTを活用した授業が積極的に行われている。 保護者アンケート | 授業参観や通信等でICT活用の様子がわかり、取組に満足している保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | 評価者：保護者 |
| | 【組織的、計画的な研修】 タブレット端末を用いて児童生徒の学校生活や学習活動が充実したものとなるよう、端末やアプリの活用に関する研修会を実施する。 | 情報課 研修 研究課 | 小中学部において、一人1台のタブレット端末が整備された。タブレット端末を有効に活用するため、生活や学習に必要なアプリの操作や、効果的な指導方法についての研修を行う必要がある。 | 【努力指標】 端末やアプリの活用に関する研修会を実施する。 | 端末やアプリの活用に関する研修会を開催した回数 A 4回以上 B 3回 C 2回 D 0～1回 | B以上で達成 | 評価者：教員 |
| 2 災害に備える | 【防災教育の充実】 方が一の災害に備え学校安全課が年間指導計画を立案し、各学部で児童生徒の実態に即した防災教育に取り組む。 | 学校安全課 各学部 | 毎年避難訓練を行っているが、避難の仕方が主であった。今後は防災リュックに関することや避難所での生活など、防災の意識を高め、行動できる力を養う必要がある。 | 【成果指標】 実態に即した目標を設定し、各学部で防災教育を実施することにより、児童生徒の防災への意識が高まったり、具体的な行動の理解が進んだりしている。 | 実態に即した防災教育の取組を通して、児童生徒が防災への意識の高まりや具体的な行動の理解が進んだと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | 評価者：教員 |
| 3 心身ともに健康に過ごす | 【感染症対策の徹底】 洗面所の使い方について児童生徒の実態把握を行い、改善目標を設定して取り組む。あわせて掲示物や保健だより等で啓発を行い、家庭と連携して定着を図る。 | 保健体育課 | 歯みがきの際は、マスクを外す、密になる、飛沫が飛び散るなど感染の確率が高い状態になる。洗面所の使い方を見直して、感染症対策を行っていく必要がある。 | 【成果指標】 感染症予防のための洗面所の使い方に改善が見られる。 | 感染症予防のために、洗面所の使い方に改善が見られた児童生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | 評価者：教員 |
| | | | 校内での取組を周知し、家庭と連携して感染症対策を実施することで、より効果的に感染症を予防することができる。 | 【満足度指標】 学校での感染症対策を理解し、対応に満足している。 保護者アンケート | 感染症予防のための取組に、満足している保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | 評価者：保護者 |
| | 【児童生徒の心のケア】 感染症に対する正しい知識を持ち、感染症に対する差別や偏見を防ぐ。 | 保健体育課 生徒課 | これまでも新型コロナウイルス感染症に起因する差別をしないよう指導しているが、より一層正しい知識を持たせ、差別や偏見をしない児童生徒を育成することが課題である。 | 【努力指標】 各学部で、児童生徒の実態に即した感染症の正しい理解や差別偏見を防ぐための授業を実施している。 | 新型コロナ感染症に関する授業を実施した回数 A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回以下 | B以上で達成 | 評価者：教員 |
| 4 業務の改善 | 【業務の効率化と環境整備】 ICT活用と環境整備を進めることで、情報共有、データ管理、円滑な引継ぎ等の業務の効率化を図る。 | 教頭 | 昨年度、業務の平準化、効率化に取り組んだが、平準化に比べ効率化が十分にすすめられなかった。課によって業務内容や状況が異なることから、一律に効率化のみを求めるのではなく、各自の課題に応じた取組が必要である。 | 【成果目標】 各教員が業務の改善に向けて自己目標を設定し、ICT活用や環境整備を進め、業務の効率化につなげている。 | 自己目標を設定し、ICT活用や環境整備を進めることで、業務の効率化につながったと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | 評価者：教員 |